

## 第72回 防災カフェ (Web) を開催しました。



### びわ湖わんにゃんマルシェが届けるペット防災

～人と動物が心身ともに豊かに暮らせるまちづくりを創出する～

日時：2022年8月22日(月) 18時30分～20時30分

ゲスト：川口 ひとみ さん

(びわ湖わんにゃんマルシェ実行委員会会長)

ファシリテーター：小島 櫻 さん

(たがトコ Radio パーソナリティ)

もし災害が起こったら、我が家のペットはどうなるの？いざという時のためにどのような備えが必要なのでしょうか？ペットと災害対策について一緒に考えました。

人と動物が心身ともに豊かに暮らせるまちづくりを創出することをテーマに、4年前に『びわ湖わんにゃんマルシェ』を立ち上げ、アルプラザ野洲の駐車場の一角をお借りして毎月1回開催しています。ペットの用品の販売、命をつなぐ譲渡会を保護団体の方と協力して開催し、飼い主とペットの縁をつなぎました。ペットと一緒に買い物をしたり、悩み相談もできます。会場を華やかにしてくれる音楽グループも協力してくれていますし、飲食店がキッチンカーを出してくれるなど、多くの企業からも協力いただいています。ペット防災については、プチ講座の開催、備蓄品の展示をしています。



ゲスト：川口 ひとみ さん

マルシェの活動を通じて私たちが知ったことは、ペットの問題は動物の問題だけではなく、人間の問題であり、それが『社会の問題』でもあるということです。

#### 同行避難について

滋賀県ではペットと同行避難する防災訓練を実施したという話を聞いたことはありません。

日本各地で多くの災害が起こっています。災害直後に起こった状況を調べると、ペットと離れ離れになることが最も多く、倒壊によりペットが逃げられず死亡した、床一面にガラスが飛散し、人もペットも足に怪我をしたなどの実例があります。(右の図を参照)

#### 災害で起きた最悪な状況(実話)

##### 災害直後の問題

- ペットと離れ離れになる
- 倒壊によりペットが逃げられず死亡した
- 床一面にガラスが飛散し、人もペットも足に怪我をした
- 外飼い猫のため、同行避難出来なかった
- ペット避難所が分からなく探している道中で災害に巻き込まれた
- ペットを置いていけないという理由で避難しない方も多く被災された



そして、避難所での生活中やその後問題として多いのは、避難所で犬が吠えて迷惑をかけるため、車中避難をした、他の避難者とトラブルになりペット同行避難が不可となった、ケージに慣れていないためストレスを与えてしまった、人見知りが激しくて、どこにも預けられず苦労した、感染症の予防をしていないペットがいて、感染が心配だったなどがあげられます。

災害を乗り越えるために飼い主が行うべき対策、準備しておくことは7つあります。

①**住まいの防災対策** ゲージを窓際に置かないようにします。災害時には窓ガラスの破片が散乱して近くまで助けに行けなくなります。

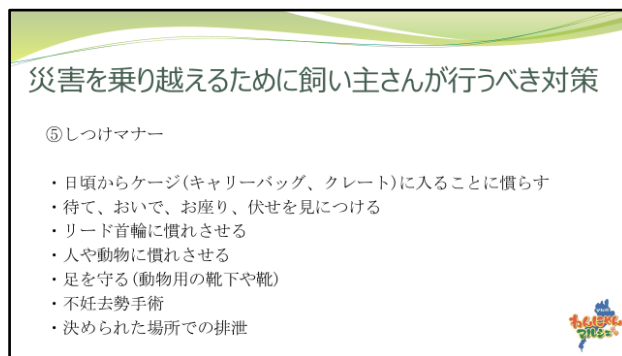
②**迷子対策** 迷子札があると離れ離れになっても見つかる可能性が高くなります。名前、電話番号、地域が書いてあると良いでしょう。また、マイクロチップについては、日本獣医師会の HP (<http://nichiju.lin.gr.jp/>) を検索していただくとわかります。

③**避難用具・備蓄確保** (会場では、休憩後、実物を見せていただきました。)

食べ慣れているペットフードをビニール袋に入れておき、マジックで中身がわかるように書いておくと良いでしょう。また、水を入れるビニール袋、レジャーシートなどは百元ショップなどでも簡単に手に入れることができます。

④**健康管理** 飼い犬登録と毎年の狂犬病予防、感染症予防のためワクチン注射やフィラリア症、ノミダニの駆除、避妊去勢手術をしておくとい良いでしょう。

⑤**しつけマナー** 避難所で人間同士のトラブルを避けるためにも、しつけマナーは大切です。一分一秒を争うようなときに、ゲージに入ってこない、時間がかかって逃げ遅れたという話もよく聞きます。日ごろから、ケージやキャリーバッグ、クレートに入る練習などをしておきましょう。(右図を参照)



⑥**情報収集と避難訓練**

動物と暮らすためには、情報を収集することと避難訓練が大切だと思います。滋賀県の災害時ペット同行避難ガイドラインはとても役に立ちます。  
(<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kurashi/eiseiaigo/300421.html> からご覧いただけます。) 県の動物保護管理センターや市町にも置いてあります。

⑦**その他**

岐阜市の NPO 法人『人と動物の共生センター』が作成されたペット防災カレンダーは、子供が見てもわかるようにつくられています。代表理事をされている奥田順之先生は獣医行動診療医師として活躍され、ペット同行の避難訓練もされています。一般の方も気軽に参加できます。電気のない状態で一日過ごしますが、2時間くらいすればストレスがかかります。不安感も高まり我慢するようになり、判断力が鈍くなってくる感覚もありました。余裕をもって、動物を避難させて一緒に暮らすことができるかどうか不安に感じました。

同行避難では、飼い主がパニックにならずに安全を確保し、その上でペットの安全と健康を守る行動をとる。他の人とのトラブルを回避するため、他者に迷惑をかけることなく、ペットを適正に飼育管理することが大切です。ペットと一緒に避難する訓練や動物と交流する機会がもてるように地域で声を上げてもらえたらと思います。

### 早期繁殖制限手術

今年の3月11日に東日本大震災の被災地の福島を訪れました。大きな災害と、同時に原発事故も起こったために多くの動物が犠牲になりました。NPO法人『栖（すみか）』の代表の代田さんは『当時は、まだペットとの避難のマニュアルや動物を保護するときのマニュアルも整理されていませんでしたので、それが多くの動物と飼い主さんを離れ離れにしてしまった原因でもあると思います。』と話されていました。

震災が起きた時は、動物をおいて人間だけが避難しました。その後、救助隊が街に入った時には、動物だけがそこに住んでいたそうです。家で飼い主を待っている姿も見られました。この地域に入れる人たちが、食べ物を与えてくださっていたようですが、数が多すぎてうまく助けられなかったそうです。避妊去勢手術をしていない地域では動物の子供がたくさん生まれていたということです。



人間と動物の命を守るために2021年に「びわ湖ハッピーにゃんずプロジェクト」を立ち上げました。地域ボランティアグループ『多賀にゃん』と野良猫の繁殖制限手術に特化したクリニック『にじのはしスペイクリニック』との協力のもと、野良猫専門の移動型不妊去勢手術病院を滋賀県多賀町に開院しました。三者の強みを活かして、人も猫も穏やかに暮らせる地域を増やしていきたいと考えています。

滋賀県の各市町でも野良猫を起因とする様々な問題が起こっています。過剰繁殖問題、多頭飼育崩壊問題、猫が増えて手を付けられなくなってしまう等です。ねこの虐待問題、公園などの糞尿被害も増加してきました。滋賀県動物保護管理センターに収容される猫の数は年間700頭～800頭余りで、約7割が致死処分となっています。ほとんどは、避妊去勢手術をしていない野良猫が産んだ自活不能な子猫です。運良く保護される子猫は一握りです。

繁殖している地域に出向いて、地域の問題は地域で考えてもらえるように活動しています。命を助けるために、人間が手術をしていくことがいいのかどうかも悩みました。地域に戻した後に、動物が幸せに暮らせる地域づくりも合わせてやっていかないといけないと思います。管理をしていくことで、災害が起きた時にうまく対応できるようになると考えています。

私は4年間の活動を通して愛情の在り方を動物に教えられ、貴重な体験を重ねてきました。動物

が好きな人も苦手な人も興味のない人も含めていろいろな人の思いを吸い上げて、穏やかに暮らせるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

### コミュニティー（ファシリテーターとの対談）

（小島）災害時に犬の足を守るために、犬用の靴下や靴があると話しされていましたが、ペットショップに行けば、ペット防災に関するグッズは気軽に手に入るのでしょうか。

（川口）最近、企業も防災について意識が高くなっていますから、防災グッズも目に付くところやキャンプ用品のところに置いている店

舗も増えてきました。犬用の靴は暑い時期にアスファルトの上を散歩する時にも役立ちます。日常使っているものが災害に役立つことも多いです。

（小島）ペットといってもいろいろな生き物が飼育されていますし、近所の方がどのようなペットを飼っているのかわからないこともあります。避難所でどう対応すればよいのか悩みます。

（川口）ペットを飼育している方たち同士が日頃からコミュニケーションをとっていくことが大事だと思います。また地域の方、近所の方にも知ってもらうことも大切です。避難所でペットと一緒にいられないときでも、預かり先を決めておくことも一つの方法です。びわ湖わんにゃんマルシェでもコミュニティーづくりに力を入れています。ペットが迷子になっても、SNSを利用して仲間が助け合って探してくれています。

（小島）家族や親しい友人以外に、災害時に助けてと言える人が近所にいるかと考えてしまいます。ペットを飼っている方もそうですが、赤ちゃんを抱いて逃げるような場合も、逃げるのに遅れてしまうと思います。いざという時に助けてと言える関係性が一番役に立つと思います。

（川口）防災は想像力を働かせることですから、備えをしておく、コミュニティーをつくっておくことが大切です。



#### 参加者からは多くの質問がありました。その一部を紹介します。

問：災害時にペットと同行避難できた事例はありますか。また事前の体制が整備されている事例はありますか。

答：事例は少ないです。室内には入れなくても、運動場のサッカーゴールや鉄棒に雨除けのビニールシートを被せて、支柱にリードを括り付けてペット用のスペースを確保したり、部活動の倉庫を利用されたりしている例があります。人の避難しているところから離れたところにするすることで、鳴き声や臭いなどによる人間同士のトラブルを回避するようにされています。避難所の中で動物を飼っている方と他の方が話し合うことができればよいと思います。

問：滋賀県ではペット同伴の避難所がないとのことでしたが、そうなるとう災害が起きた場合、どうペットと一緒に避難すればいいのでしょうか。

答：住んでいる地域で声を上げていくことだと思います。地域の防災訓練をペットも含めた形にみ



んなでつくり変えていくなど、動物と一緒に暮らしていることを地域の方に知ってもらえるように相談していくことだと思います。

離れ離れになりたくないということで、避難所に行かないで自宅に残るという選択が一番多いです。また、車中でペットと過ごすという形も多いです。命の優先順位はまず人間であるのは当然ですが、一緒に過ごしたいと思うのも当たり前ですから、ペットと同伴できる避難所をつくってくださいという声を上げることだと思います。飼い主と一緒になくても、使える倉庫はないかといった提案などができるようになればと思います。

問：ペット同伴の避難所が設置されたとしても、多種類の動物を同一の場所に集めることは可能でしょうか。

答：分けはしたほうが良いと思います。また避妊去勢手術をしているか、健康管理ができていかなどを事前に確認することも大事です。猫と小鳥が近くにいるとストレスになりますから、タオルや段ボールで目隠しことも考えたほうが良いでしょう。

問：避難所にはどのようなものを備蓄すればいいでしょうか。

答：ペットフードも好みがありますから、共有できるものばかりとは言えません。人間と同様に動物も環境に慣れなくて、ストレスがたまるようになります。健康管理も含めて、ペットに応じたものを飼い主が用意することになると思います。自治会等には避難所の運営マニュアルやガイドラインを用意しておいてもらえたらと思います。



ファシリテータ 小島 櫻 さん

川口さん、小島さん、参加者のみなさん ありがとうございました。